



天守閣再建工事中



再建工事を見学する子供たち

石原 大きな戦はなくても、やはり、城のもつ意味、日本全土を見据える和歌山城の意味があった。それに、築城の名手といわれた藤堂高虎の最初に手掛けた城だということでも、城ファンにとっては、放っておけないですよ。

市長 和歌山城からはいろいろな時代背景が感じられると思うので、お城ファンはもちろん、多くの人に訪れてもらいたいですね。



「南海之鎮」の印面をもつ金印

市長 その通りだと思います。それで、徳川の初代藩主の頼宣公が、「南海の鎮」としてこの西国を治めようとしたんです。

新春対談

城が輝き、歴史が薫るまち「和歌山市」

「和歌山城天守閣再建60周年」を迎えるにあたり、芸能界きってのお城好きである石原良純氏とともに、和歌山城や和歌の浦の魅力、和歌山市の未来について語りました。



石原良純 × 尾花正啓

対談は1月1日 11時～（再放送1月3日 17時～）テレビ和歌山で放送します。

城下町の魅力

石原 和歌山市には35年前に来たことがあるんです。友達3人と東京から車で。そのときも、もちろん、まずは和歌山城に行きました。今日もお城に行ってきました。僕は、まちの一番高いところに登ると、そのまちを一番よく知ることができると思うので、二気に天守閣を上ってきました。

市長 35年ぶりの和歌山城はどうでしたか。

石原 いやー、天守閣は最高ですね。和歌山市を一望できるし、前に来た時と変わらずに景色は最高でした。やはり、お城のあるまちはいいですね。

市長 そうでしょう！和歌山城は和歌山市のシンボルですからね。



語り部の解説を聞きながら城内を散策する石原氏



お城に行くと、ガイドブックにも載っていないような一番良い画を探すのが楽しみだという石原氏。インスタ用の写真を自撮り。

石原 城下町が羨ましいと思うのは、ぼつと見た時に、いつも天守閣が見えるじゃないですか。何か見守られている安心感。お城があるから、僕らの暮らしは大丈夫だ、というような。

市長 ほんとにそうなんです。やっぱり長年に渡ってお城があるということが、市民にとって「心の拠り所」になっていると思いますね。

石原 それに、石垣もそうなのですが、そこには歴史がある。まず豊臣時代があって、それから浅野氏が入ってきた。ここがすごく重要な時期で、1600年の関ヶ原の戦いから1615年の大坂夏の陣までの間というのは、歴史的に大きな戦はないけれど、水面下では駆け引きがされている。もしかしたら、浅野氏が裏切るかもしれない、というのがあったりして。徳川は、いつか西国が反乱を起こすのが怖かったと思う。

石原 60周年ですか。それは市民の悲願。良かったですね。やはり、城が元に戻るまでがんばろうという、心の拠り所になる。僕は九州にもよく行くのですが、熊本城も地震の被害をすごく被った。すると、熊本のお年寄りの方が「熊本城が再建されるまで、元に戻るまでがんばろう」と。まちの人の気持ちが一つになるっていうのは、僕も絶対にあると思いますね。

和歌山城の魅力向上への取組

石原 僕もいろいろな城のあるまちに行くのですが、今は自分のまちの城の価値に気がついて、整備が進んでいますね。和歌山城も今後整備されるのですか。

市長 そうですね。二之丸には、かつて大奥があったんです。その大奥を再建できたらと思っています。そうですね、日本の城で唯一大奥があるお城になるんですよ。また、もともと西之丸は風情を楽しむようなところで芸術文化の拠点だったので、紅葉が綺麗な紅葉溪の近くに、能舞台があったんです。この能舞台も復元していきたいと思っています。こう



二之丸の大奥再現図



西之丸の能舞台再現図

